

農作物技術情報 号外 低温対策（水稻）

発行日 2019年 4月 4日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 県内では3月下旬以降、最高・最低とも平年より低い日が続いており、向こう1週間の気温も平年に比べ低いと予想されています
- ◆ 県内の水稻は、種子予措の時期を迎えています。良好な催芽・出芽状態を得るため、浸種は適正水温12～15℃、7～10日間を遵守しましょう。

水稻 種子予措

東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，3月28日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、低い確率が60%と予想されています。また、向こう1週間の予報（4月4日11時発表）においても、気温は平年並みか平年より低く、雪の降るところがある見込みとなっています。

この時期は、上水道の水温が10℃を下回る場合が多く、また、浸種中の水温も外気の影響で低下しやすくなります。良好な催芽・出芽を得るため、以下の水温管理につとめましょう。

適正浸種水温12～15℃、浸種期間7～10日を遵守する。

- (1) 水稻種子は、10℃未満の低水温浸種で発芽速度が遅くなり、発芽率は低下します。特に、浸種後24時間の浸種水温（1日目の水温）が低いと、その後十分な水温を確保しても出芽ぞろいが悪くなるため（図）、用水温が低い場合は、足し湯などにより15℃程度の水温を確保してから浸種を開始しましょう。また、外気温を遮断し昼夜の寒暖差を小さくするため、下記のような工夫を講じましょう。
 - 屋内で浸種を行う
 - 浸種水槽にコンパネや被覆資材を重ねて蓋をする
 - 催芽機の利用 等
- (2) 浸種日数が15日を越えると、出芽率が低下することがあります。浸種期間は7～10日（積算温度100℃程度）を遵守しましょう。



(温温区) (冷温区) (冷冷区)

< 1日目水温 >	13℃	5℃	5℃
< 2～10日目水温 >	13℃	13℃	5℃
< 出芽率 >	87%	53%	1%

図 浸種水温条件と出芽・苗立ち（播種6日後）